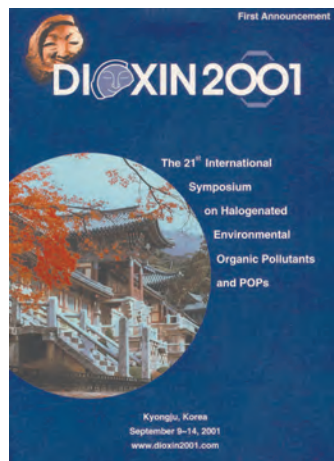


2001年9月9日から14日にかけて第21回ダイオキシン類国際シンポジウム (21<sup>st</sup> International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, DIOXIN2001) が韓国の慶州 (Gyeongji : キョンジュ) で開催されました。本シンポジウムは年1回、各国持ち回りで開催され、ダイオキシン類をはじめとする有機塩素化合物の調査、分析、解析、リスク評価、法規制などに関する国際的な情報交換の場となっています。本年度ブロック分けされた各セッションの名称を下記に示します。



- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>•Plenary (全体会合)</li> <li>•Analysis (分析)</li> <li>•Formation &amp; Sources (生成と発生源)</li> <li>•Bioanalytical Approaches for POPs Detection (POPs検出への生物分析手法)</li> <li>•Brominated Flame Retardants (臭素系難燃剤)</li> <li>•Dioxin Reduction Technologies (ダイオキシン削減技術)</li> <li>•Ecotoxicology (生態毒性)</li> <li>•Endocrine Disrupters (環境ホルモン)</li> <li>•Environmental Levels (環境中のレベル)</li> <li>•Epidemiology (疫学)</li> <li>•Human Exposure (人体暴露)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>•International Treaties (国際対応)</li> <li>•Levels in Aquatic Environment (水生生物中のレベル)</li> <li>•Neurotoxicity (中枢神経系への影響)</li> <li>•Other Chlorinated POPs of Concern (他のPOPs類)</li> <li>•PCDD/F Gas-monitoring Methods (排ガスのモニタリング手法)</li> <li>•POPs in Foodstuff, Vegetation &amp; Animals (食品・野菜・POPs)</li> <li>•Remediation Control Technologies (汚染修復技術)</li> <li>•Risk Assessment (リスクアセスメント)</li> <li>•Toxicology (毒性)</li> <li>•Transport &amp; Fate (輸送と挙動)</li> </ul> |
|---|---|

当社では、不参加の年もありましたが、第14回から本シンポジウムに参加・発表を行って来ております。本年は、環境創造研究所環境リスク研究センター及び環境化学グループから松村、深海、関が

前半と後半に分かれて参加し、3つのセッションにおいて計6つのポスター発表(下記、【 】内は当社発表者)を行いました。

- |   |   |
|---|---|
| <p>Analysis</p> <p>(1) Development of Solvent Cut Large Volume (SCLV) Injection Technique with Dual Column Configuration for Rapid and High Sensitive GC-HRMS Analysis -(1)Narrow Bore Capillary Column Applied to Low Femto Gram Dioxins -【増崎,松村】</p> <p>(2) High Sensitivity Analysis With Solvent Cut Large Volume (SCLV) Injection Technique (I)Low Femtogram Level Dioxins Analysis for Human Blood. 【増崎,松村】</p> <p>(3) Relative Comparison of Commercially Available PCB Standards【松村,増崎,関】</p> | <p>Environmental Level</p> <p>(4) Dioxins in Drinking Water Treatment Process【松村】</p> <p>Human Exposure</p> <p>(5) Use of Archived Duplicate-diet Samples to Measure Past Dietary Exposure to Dioxins in Japan【関,松村】</p> <p>(6) Dioxins and Coplanar PCBs in Diet Samples by Duplicate Service Method【松村,関,泥谷,社本】</p> |
|---|---|

シンポジウム全体としては、測定方法の高精度化と簡易化、リスク評価、環境ホルモン、POPs、臭素系化合物に関する発表が多く見られました。話題

の傾向と実務における重要度は必ずしも一致しないので注意が必要ですが、今後の方向性に関するヒントは得られたと思います。

## ● その他、2001年発表論文

発表年月	著者名 (当社関係者のみ抜粋)	発表先	論文名
2001年1月	大阪支店・野元ら	南紀生物第43巻第1号別冊	和歌浦で再発見されたワカウラツボ(腹足綱)
2001年1月	大阪支店・野元ら	南紀生物第43巻第1号別冊	奄美大島から記録された汽水産希少カニ類12種
2001年2月	創造研・松村徹	環境技術 vol.30	PCBの分析
2001年3月	創造研・松村ら	第10回環境化学討論会	塩素処理によるダイオキシン類の生成特性
2001年5月	創造研・松村ら	第10回環境化学討論会	水道水中のダイオキシン類化合物組成について
2001年5月	創造研・松村徹	第10回環境化学討論会	Column Switching Trap-Dual Column GC-HRMSによるダイオキシン類分析
2001年5月	創造研・倉本ら	第10回環境化学討論会	いくつかの液相GCカラムによるコプラナーPCBの測定
2001年5月	創造研・松村ら	第10回環境化学討論会	新しい液相の極微性カラムを用いたダイオキシン類の分離定量
2001年5月	創造研・松村ら	第10回環境化学討論会	大気浮遊粉じん中ダイオキシン類濃度の経年変化について
2001年5月	創造研・松村ら	第10回環境化学討論会	陰膳食事試料中のダイオキシン類の分析
2001年5月	創造研・増崎ら	第10回環境化学討論会	品質管理確認試料を用いた血液中の超微量ダイオキシン類分析の精度管理
2001年5月	創造研・松村ら	第10回環境化学討論会	大容量水試料濃縮装置とイオントラップ型GC/MSを用いた水試料中のダイオキシン類測定
2001年5月	創造研・松村ら	第10回環境化学討論会	人工衛星を用いたダイオキシン類調査におけるサンプリングの精度管理
2001年5月	創造研・松村ら	第10回環境化学討論会	化合物組成によるダイオキシン類測定分析結果の精度管理
2001年5月	創造研・増崎ら	第10回環境化学討論会	市販PCB標準溶液の濃度相互比較の結果
2001年5月	創造研・池田ら	第10回環境化学討論会	LC/MSによる環境試料中のアルキルベンゼンスルホン酸の分析
2001年5月	大阪支店・和田光明	天気 vol.48 N.5	ヨシ原焼きにより発生した雲
2001年6月	大阪支店・堀家健司	応用生態工学研究会	琵琶湖の湖岸環境に関する研究Ⅱ 沈水植物の群落面積と季節変化
2001年6月	情報研・白井明夫	応用生態工学研究会	無土壌岩盤地における法面処理の変遷について
2001年6月	大阪支店・松本ら	応用生態工学研究会	ダム事業によるイヌワシ、クマタカへの影響に関する解析手法の検討
2001年	創造研・田畑ら	水道協会雑誌67巻第10号	水道水中のホウ素とその一日全摂取量への寄与に関する研究

